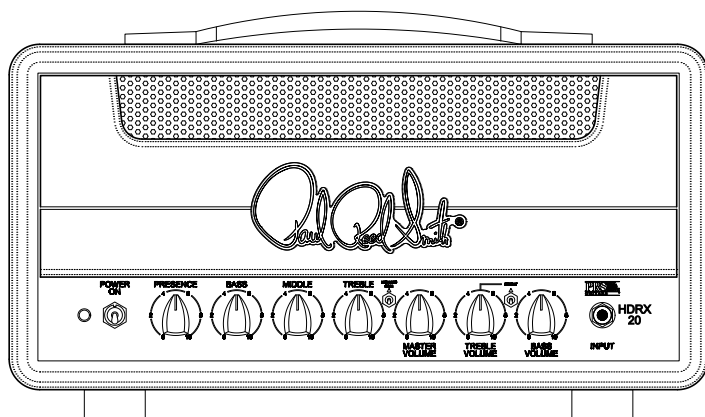




HDRX 20 USER'S MANUAL



PRSアンプの使用について

HDRX20をお買い上げいただきありがとうございます。アンプを安全に使用するため、本書をよくお読みください。本書をよく読むことは、多くの機能を十分理解してアンプの性能を最大限に引き出すことにつながります。

1. スピーカー、またはスピーカーキャビネットが高品質なスピーカーケーブルで、アンプのスピーカーアウトプットジャックと適切なインピーダンスで接続されていることをご確認ください。
2. 電源ケーブルが、グラウンド（アース）が取れている電源コンセントに接続されていることをご確認ください。
3. アンプを使用していると、徐々に本体が熱を持ちます。そのため、少なくともアンプの周辺15cmは、アンプの熱を逃がすスペースとして確保してください。アンプを壁や他の機材に隙間なく寄せて使用すること、また、他のアンプやストーブなど、熱源となるものの近くでの使用はおやめください。使用中、アンプの背面にカーテンなど、可燃物を置くことはおやめください。アンプ本体を布などで覆うなど、熱を逃がすことを妨げる行為はおやめください。アンプ上部にドリンクなどを置くことはおやめください。
4. 本製品はスタンバイスイッチを搭載せず、電源スイッチのみでアンプの主電源が入り、演奏出来るように設計されています。もしアンプの音をミュートする場合は、インプットジャックに接続されているケーブルを、クリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。
5. 本製品は大きな音量を出す設計になっているため、アンプの電源を入れる前に、必ずヴォリュームとマスターボリュームがゼロになっていることを確認してください。ギターケーブルをインプットジャックにしっかり差し込んだことを確認の上、ヴォリュームとマスターボリュームを徐々に上げて音量を調節してください。



本製品では大音量での演奏が可能です。長時間の演奏は聴覚に支障をきたす可能性があります。そのため、ご注意ください。また、本製品に異常を感じた場合、必ず直ぐに使用を中止し、購入されたディーラーへ連絡の上、PRS Guitars Japanカスタマーサービスへご連絡ください。ご自身で修理を試みることは、安全上の観点から絶対におやめください。本製品を使用する際は、必ずグラウンド（アース）が取れている電源コンセントに接続されていることをご確認ください。

HDRX 20 フロントパネルコントロール

・INPUT（インプット）

モノラル仕様のギターケーブルを使用して接続してください。
このインプットジャックから入力された信号は、内部でブリッジ接続されているトレブル/ベース
両チャンネルへ送られます。

・BRIGHT SWITCH（ブライトスイッチ）

トレブルヴォリュームの高域補正になります。
（トレブルヴォリュームが低めに設定されている場合に高域が強調されます。）
また、トレブルチャンネルのヴォリュームが最大の時は、このスイッチをオンにしても効果は得られません。

・BASS VOLUME（ベースヴォリューム）

ベースチャンネルの音量を調整します。
トレブルチャンネルとバランスをとりながら、サウンド全体における音の厚みを調整することができます。

・TREBLE VOLUME（トレブルヴォリューム）

トレブルチャンネルの音量を調整します。
ベースチャンネルとバランスをとりながら、サウンド全体における明瞭度を調整することができます。

・MASTER VOLUME（マスターヴォリューム）

アンプ全体の音量を設定します。
マスターヴォリュームを低く設定した状態でトレブルとベースヴォリュームを高めに設定すると、
より歪んだサウンドが得られます。反対にマスターヴォリュームを高く設定した状態でトレブルと
ベースヴォリュームを低めの設定にすると、よりクリーンなサウンドが得られます。

・TREBLE CONTROL（トレブルコントロール）

高音域をこのノブで調節します。両チャンネル共通となります。

・GAIN SWITCH（ゲインスイッチ）

中高音域のゲインをブーストする回路用のスイッチになります。
オンにするとより透明感のあるサウンドになり、オフにすると滑らかなサウンドになります。
両チャンネル共通となります。

・MIDDLE CONTROL（ミドルコントロール）

中音域をこのノブで調節します。両チャンネル共通となります。
中音域をスクープしたサウンドから、ふくやかな中音域を押し出すパンチのあるサウンドまで
幅広いサウンドメイクが可能です。

・BASS CONTROL（ベースコントロール）

低音域をこのノブで調節します。両チャンネル共通となります。
低めに設定するとゲインを上げた時にタイトなサウンドになり、高めに設定すると深みと厚み
のある低音を得ることができます。

・PRESENCE CONTROL（プレゼンスコントロール）

パワーアンプ部の明瞭度（ネガティブフィードバック）を追加・調整することができます。
両チャンネル共通となります。

・POWER ON/OFF SWITCH（パワーオン / オフスイッチ）

本製品はスタンバイスイッチが非搭載のアンプとなります。
そのため、アンプの音をミュートする場合は、インプットジャックに接続されているプラグ
（ケーブル）を、クリック音が一回するまでゆっくりと抜いてください。

HDRX 20 リアパネルコントロール

・MAINS SOCKET（メインソケット）

本製品を使用する際は、必ず付属の電源コードをご使用ください。また、本製品を置く場所を
移動する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）を
全て外してから行ってください。

・FUSES（ヒューズ）

本製品には、リアパネル上から直ぐにアクセスできるヒューズと、出来ないヒューズがあります。
ヒューズの交換を行う時は、必ずヒューズ本体に記載されている仕様と同じものを用意してください。
異なるヒューズを使用した場合、製品に致命的な損傷が生じ、思わぬ事故につながる可能性があります
があります。また、ヒューズを交換する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器
（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

・MAIN FUSES（メインヒューズ）

メインヒューズ用のトレイは、主電源用のソケットモジュール内に組み込まれています。
なお、ソケットトレイには、2つのヒューズをセットすることができ、ひとつはスぺア用となり
ます。ヒューズのタイプやスペックは、使用する国や地域によって異なりますので、詳しくは
主電源用ソケットモジュール下に記載されている内容をご確認ください。

・B+ FUSES（B+ヒューズ）

B+/H.T.ヒューズは、MAINS SOCKET（メインソケット）横のリアパネルからアクセスすること
ができますが、このヒューズ交換を行う際は、必ず事前に購入されたディーラーへ、交換するヒュ
ーズが正しいものかご確認ください。またヒューズの交換作業をご自身で行うことが不安な場合
は、必ず購入されたディーラーへご相談ください。

・FILAMENT FUSES（フィラメントヒューズ）

フィラメントヒューズは回路上にあるため、交換の際は、必ず購入されたディーラーへご相談
ください。

・BIAS JACK AND POT（バイアスジャックポット）

パワー管の消費電流をミリボルト単位で測定する端子です。ひとつの端子につき、1本のパワー
管が連動しています。1mVと測定された場合、そのパワー管には1mAの電流が流れていること
になります。中央のバイアス端子がグラウンドになり、測定する際、テストの黒いリード棒
（COM端子に接続）をこの端子に差し込みます。バイアスジャックでの測定により、各パワー
管が正常に動作しているかの確認することが出来ます。なお、バイアス調節と真空管の交換に
関しては、ご自身で行った場合、思わぬトラブルにつながる可能性がありますので、必ず購入
されたディーラーへご相談ください。

・SPEAKER JACKS（スピーカージャック）

スピーカーキャビネットと接続する際に使用します。4Ω(オーム)の平行接続×2、8Ω(オーム)
の平行接続×2、16Ω(オーム)×1の計5つとなります。
使用する前に、必ず本製品と使用するキャビネットの入力値とインピーダンス（Ω）を確認し、
適切なものをご使用ください。異なるインピーダンスのジャックを同時に組み合わせ
（16Ωのジャックと8Ωのジャック、8Ωのジャックと4Ωのジャックなど）、使用することは
絶対におやめください。
また、インピーダンスの異なるスピーカーを2台同時に使用することもおやめください。
16Ωのスピーカーを2台平行（並行）接続する際は8Ωのジャックを2つ、8Ωのスピーカー
を2台平行（並行）接続する際は、4Ωのジャックを2つ、それぞれご使用ください。
正しいインピーダンスで接続されなかった場合、チューブソケットやパワー管の破損、及びアン
プ本体の故障に繋がる可能性がありますので、正しい接続方法でご使用ください。

・真空管

使用する頻度や使用方法によって異なりますが、真空管は消耗品です。

また、真空管はサウンドの要となるパーツのため、正しい使用方法を長期間使用していると真空管が動作不良を起こすことがあるため、不具合が起きた際の対処法を事前に知っておくとよいでしょう。

まずは定期的な点検として、真空管のフィラメントのオレンジ色以外に、内部で何か他に発光しているものがないか確認をしてください。

真空管に過剰な電流が流れた場合、オレンジ色ではなく、鮮紅色に発光する場合があります、この場合、内部で何かしらの異常が起きていることを意味します。

また、以下のシチュエーションも考えられます。

- 1) フィラメントが光っていない。
- 2) 真空管の内部で小さな火花が上がっている。

これらの状態は、真空管に深刻な問題があることを示しており、直ぐに使用を中止し、その原因を確認する必要があります。

アンプから発するノイズに関しては、その原因が真空管であることが多く、プリ管はスピーカーキャビネットの振動を受けて、ノイズを発振する場合があります。

プリ管に関しては、交換後、特に別途調整作業等は必要ありませんが、パワー管の場合は交換後、バイアス調整が必要となります。パワー管交換後、最初に内部が鮮紅色に点灯していないかの確認後、バイアス調整を行ってください。

パワー管のバイアスは29mV (± 5 mV)で行ってください。2本のパワー管のバイアス差が5 mVを超える場合、ノイズの発生や本来のサウンドにならない可能性があります。そのため、マッチングされているパワー管を購入・使用することをお勧めします。

2023年1月作成



注意！：内部回路及びパーツの損傷及びアンプ本体の故障に繋がるため、真空管を抜いた状態では、絶対にアンプの電源を入れないでください。



注意！：電源をオフにし、ケーブルを抜いた後でも、コンデンサー内部には電気が滞留している場合がありますので、ご注意ください。

製品に関するお問い合わせ

Paul Reed Smith Guitars カスタマーサービス

support@prsguitars.co.jp